

# 神戸市新型コロナウイルス感染症対策 第1次対応検証結果報告書 に対する意見・提言等募集結果の公表について

## 1. 概要

神戸市新型コロナウイルス感染症対策第1次対応検証結果報告書について、市民・関係者から、広くご意見や次なる波への備えに関する提言等を募集しました。

頂いたご意見・ご提言につきましては、庁内においても共有し、感染拡大の波への備えに生かしていきます。

## 2. 募集期間

7月7日（火曜）～7月31日（金曜）

## 3. 募集結果について（詳細は別紙参照）

### （1）意見提出件数

154件

### （2）項目別意見内訳

- |              |               |
|--------------|---------------|
| ①医療提供体制（49件） | ⑦事業者向け支援策（3件） |
| ②周知・広報（45件）  | ⑧職員・組織・庁舎（7件） |
| ③市立学校園（26件）  | ⑨物資備蓄体制（2件）   |
| ④保育所等（7件）    | ⑩市有施設等（1件）    |
| ⑤社会福祉施設等（4件） | ⑪意思決定（3件）     |
| ⑥個人向け支援策（6件） | ⑫その他（14件）     |

### （3）今後の活用

頂いたご意見・ご提言について、下記項目を始め、庁内においても共有し、今後の新型コロナウイルス感染症への対応に生かしていきます。

- 感染拡大期において、市退職保健師や県予防医学協会保健師・看護師とも協力・連携を図りながら、必要な人員体制を確保する。
- 感染拡大防止のため、新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録や「兵庫県新型コロナ追跡システム」及び「感染防止対策宣言ポスター」の積極的な利用を呼びかける。
- 大人数での会話を伴う食事等においてリスクが高いことを踏まえ、着席の方向や人数、換気、消毒の徹底等、各個人が意識を持って注意するよう、呼

びかけを行っていく。

- 外出自粛等社会活動制限下においても、健康的な生活の維持のために、人混みを避けた上での運動や散歩等は控えることのないよう、呼びかける。
- 感染拡大防止のための対応や個人・事業者向け支援等の情報発信にあたっては、視・聴覚障害者、在住外国人等に配慮し、的確に情報が伝わるよう対応を行っていく。
- 小、中学校、高等学校、大学等、各種専門学校等、各教育機関において、感染予防に対する教育・啓発を行っていただくよう、積極的に呼びかける。
- 施設において感染者が発生した際にも適切に対応できるよう、各施設において予め確認可能な対応手順を整理する。
- 屋外での開催イベントについて、「with コロナの時代」にふさわしい対応を市が率先して行うことで、参加者の理解や協力を求めていく。

## ■「神戸市新型コロナウイルス感染症対策第1次対応検証結果報告書」の主なご意見

分野	概要
医療提供体制	PCR検査がすぐにできる体制を構築すべき。
	アビガンを早期に投与できるようにしてほしい。
	ドライブスルー的な所で、保健所を通さずに、誰でも直ぐにPCR検査が受けられるようになると良い。
	病院に入院される方には、全員、コロナ以外の病気や怪我でも、PCR検査をする必要があるのではないか。
	具合が優れなければすぐに病院で診てもらえるように体制を整えて欲しい。
	帰国者・接触者相談センターに連絡してくる人間全てがコロナウイルス感染をしている可能性があると思って対応すべき。
	大学の理系学部にはPCR検査機器があり機器や人員を借りれば、より多くの検査をすることができると思われる。
	感染拡大により変異が起きている可能性があるので再び遺伝子配列の決定を行なってほしい。
	兵庫県の中でも神戸市の検査のハードルが高すぎる。症状のある人は検査できるようにしてほしい。
	体調不良の市民が近隣の医療機関を受診したときに、本人が希望して、自費で感染検査を受けたいと申し出たときには、検査が受けられるようにする。
	インフルエンザとコロナ患者に、街のクリニックはどのように対応すべきか、詳しく示して欲しい。
	1ヶ所にコロナ専門病院を作り、たらい回しや検査を受けられない環境をつくらないようにしてほしい。
	熱があっても病院で診察拒否され、保健所に電話をしても病院に行けと言われ、持病があるのに診察を受けられなかった。改善してほしい。
	PCR検査と抗原検査に加えて、採血による抗体検査も採用してはどうか。体温測定、マスクの着用に加えて、PCR検査、抗原検査、採決による抗体検査のいずれかを受けて、菌保持者でないことを書面で提示していただければどうか。
	保健師による疫学調査ですが、保健師が行うのではなく、タッチパネル式のタブレットを渡し、回答してもらうことで他の職員が行っても良いのではないか。その際、データを匿名化し、特定できないようにして公表する事の同意も求めれば、より正確な感染ルートが分かる。
	軽症者の輸送は、保健所が行うのではなく、運転席と後部客席とに隔壁を設けた車両を用意し、他の職員、あるいは民間にってもらうべき。
	重症者を受け入れる基幹病院では、来院時に全員の体温を瞬時に計測できる機器をゲートに設置した上、サイレントキャリアがいる者と常に認識して接触、飛沫感染防止策を徹底してはどうか。
	精神科病院での陽性者発生時の対応についても検討いただきたい。精神疾患や認知症の陽性者を迅速に受け入れていただける体制づくりを。
	感染症専門病棟と専門医療スタッフ、検査体制の整備拡充を切望する。
	実習生は、来年からの医療・介護・障害分野の担い手です。安心して実習受入れが出来る、PCR検査など実習に来られる対策が必要。
実習前にワクチン接種等、何か有効な手立てを検討する。	
医療が逼迫する前に、医療従事者が精神的にも経済的にも多少ゆとりを持って働いて頂ける様にしないといけないのではないか。	
学校や職場で出た場合はその学校内、職場内にいる全員に検査をする体制を整えるべき。	
プレハブでの収容施設、検査施設を建設する事を進めてもらいたい。自然災害時の避難所としても使える様に。	
職員用駐車場に、コロナ専用臨時病棟を開設する際ゾーニングがきちんとできるのかということに不安を感じている。	
ドライブスルー方式や簡易検査場を作って誰でも検査できるような状況を早く作って欲しい。	
ニューヨーク等、海外の感染抑制に成功している事例を積極的に参考にすることが必要である。	
大阪市ではバスによる予約制の臨時PCR検査所を作り、症状のある人だけでなく、無症状でも不安のある人も検査しているそう、このような取り組みが必要ではないか。	

## ■「神戸市新型コロナウイルス感染症対策第1次対応検証結果報告書」の主なご意見

分野	概要	
医療提供体制	発熱があり、コロナの、可能性が1%でもある人はPCR検査を受けられるようにしたほうが良い。	
	神戸市でも検査可能数を増やす取り組みをされているが、人口などからした必要数が示されていない。	
	濃厚接触者の定義が狭すぎるように思えます。事例が出た際には、PCR検査のより広い範囲の検査を要望します。	
	医療機関の状況(発生状況と新型コロナ関連の受診者と思われる患者の受診状況等)が一切わからずに病院に行くこと自体、はばかられます。しっかりと感染者の発生した病院については病院名を公表して、その病院に対しての病院自体の対応をしっかりとすれば変な噂は発生しない。	
	大阪との行き交いを制限し1日も早くPCRを拡充し誰でも受けることができる体制を作るべき。	
	病床を直ぐに増やし、ホテルも自宅療養を希望する人以外は直ぐに入れるよう体制を整えるべき。	
	他の医療機関の倒産、閉院を避ける為、大阪の十三病院のように専門の感染者外来、入院先病院を一つに集約すべき。	
	医療施設、介護施設の従事者に対しては毎週定期的にPCR検査、或いは抗原検査を実施してクラスターの発生防止を行う。	
	検証報告書に医療体制に協力した団体名の記載をすれば、協力者を募りやすく、また協力者のモチベーションの向上に繋がると思う。	
	マスクなしでしか部活はできませんので、部活内で感染者が確認されたら部員全員のPCRを義務付けすべき。	
	病院や医療関係者への定期的なPCR検査を実施できる体制を整えることが必要。	
	介護施設の職員、保育施設の職員など、接触を避けることのできない職業の人たちへの定期的なPCR検査も必要。	
	無症状でも大阪など大勢の感染者が出ている地域に勤務し続けている方に、定期的にPCR検査を提供すべき。	
	感染症の対策の一番は、検査と隔離であり、感染者をすべて隔離できれば、安全な社会活動はできる。	
	広報・周知	「介護を必要とする高齢者専用コロナ病棟」を建立すべき。
		市として、感染症病床やICUの増床、検査体制の充実のため、医療提供体制や保健所の体制を抜本的に見直すべき。
医療機関・福祉施設・学校(陽性者が発生した場合に全校検査及び休校)などを重点的にPCR検査(唾液や全自動検査装置の購入を含む)体制及び隔離体制を強化するため、最優先でできる限りの予算措置と対策を講じてください。		
PCR検査を拡充させてください。また感染者の出ている学校でのPCR検査を徹底してください。		
引き続き検査能力の拡大とともに、狭い検査基準を思い切って広げることが求められる。		
すべての医療機関へ感染対策への補助や減収への補償策を用意すること。		
施設では濃厚接触者となった入居者の介護をします。この場合に、できるだけ多くの利用者(濃厚接触者に限らず)にPCR検査を行い陽性者はなるべく早く医療機関へ移してほしい。		
感染をすればまるで罪人のような扱い方をする報道では、心と時間がいくつあっても足りない。		
高校生はスマホ保有率が高く行動範囲が広い。9年前の新型インフルエンザの時は高校生から広まった事をふまえて、兵庫県の高中生全員に厚生労働省の接触アプリcocoaを入れて頂ければ、早めの感染のキャッチが出来て抑える事が出来き、保護者も安心するのではないかと。		
コロナ接触アプリ「cocoa」にお店側もお客様も加入している事などを条件にステッカーを貼ってはどうか。		
若者は無症状・軽症という事が分かっていますので、緩んでいらっしゃる方もいらっしゃいます。改めて自分が感染対策をする事で、周りの大切な人を守り、そして沢山の人を守るという事をお知らせしないとイケない。		
感染拡大を防ぐために、感染者の行動を公表してはどうか。		
乗車した乗り物や通勤圏を発表したら、そこを利用してる人への注意喚起につながると思う。		

## ■「神戸市新型コロナウイルス感染症対策第1次対応検証結果報告書」の主なご意見

分野	概要
広報・周知	グラスの縁は持たず、食べ物は個包装にし、ゴミ箱も蓋を付いた物を使用する。床に落ちた物を拾うと床にもウイルスが付着する。
	各地方から、兵庫県に來られ際の条件として、厚生労働省のコロナ接触アプリcocoaに登録して頂いたらいかがか。
	厚生労働省のコロナ接触アプリ「cocoa」を広げるにはどうしたら良いか、芸能人の力を借りる。また、大規模イベント開催の際に周知、働きかけを行う。
	個人の居住区や感染経路は一切公表せず、ここにきて企業や病院は公表する一貫性が無いのではないか。
	医療機関への情報開示が少なすぎます。医療機関へはせめて区、できれば町名を開示して頂きたい。
	着席の方向や人数、換気、机や共用の用具等の消毒を徹底し昼食休憩を30分にして食べるときは無言で、食べ終わった後にマスクをしてから少々会話をするようにする。ウイルスにスキを与えないよう、個人が意識をもって注意することとして啓発する。
	特措法上の規定が単に「外出自粛」としても、外出にもいくつかのリスク区分があり、人混みを避けた上での運動や散歩はむしろ積極的に行うよう周知すべき。
	オウムのように市が連呼するのではなく、受け取り手がどう捉えるかを踏まえて、市側がテレビや広報紙を通じて具体的かつ丁寧に説明することが必要。
	第三章で記載されている、次なる波への備えについて、経過報告(進捗)を広報紙やネット、メディアで随時報告していただきたい。
	自己感染防止の為にもっと詳しい情報開示、例えば感染者の移動ルート、手段、種別などそれぞれ、線の色を変えるなど一目で分かるようにする。個人情報など特定されない工夫をすれば問題ない。
	スーパーなどのレジを、高齢者と若者で、分けてはいかがか。
	東京や大阪からの行き来をなるべく減らすようにしてほしい、今は旅行も往来も極力減らすように市でも取り組んでほしい。
	区単位(東京都は実施している)の陽性者発生数の掲載を希望する。
	飲食店等、コロナ対策をしてるかどうかの見える化をしてもらいたい(看板の設置など)
	現状の取り組み状況を「神戸市新型コロナウイルス対応」に掲載し、都度更新して我々市民が安心できる様に情報公開して貰いたい。
	神戸市、神戸市民は自粛をするとともに、他県からは來られないようお願いして頂きたい。行かないで・来ないでキャンペーンしていただきたい。
	飲食業は接待関係なくマスク必須としてほしいため、事業者、特に飲食業(接待を伴うものではなくて一般的な意味)の人たちに、具体的に感染防止策を明示してほしい。
	新規感染者の個人情報よりも感染経路や居住地区、勤務場所など詳細な情報をがほしい。
	神戸市の各区よりも人口のはるかに少ない自治体が感染者数の公表を行ってるのに、神戸市各区の公表がないのは極めておかしい。
	飲酒により簡単に不注意になってしまい、酔いが進むと守れなくなります。市民に、特に若者に、アルコールを摂る場での量の制限を提唱してはどうか。
	コロナは風邪と同じで殲滅させる必要などなく、体調を整えて、引きはじめに無理をせず体をしっかり休め、安静にし、自己治癒力で快癒させれば良いだけ。
	マスクも、消毒も、ソーシャルなんたらも強要しないでください、人権の侵害である。
	陽性者の居住地の公表の方法について、神戸市の何区かは公表をしていないが、学生や児童に関しては学校名の公表をしている。結果的に在籍の子どもたちに対して、偏見等のリスクが高まる。
感染児童の学校名等を公表するのなら、今後は成人に対しても何区居住なのかを公にしないと不公平ではないかと考える。	
インフルエンザに対して、これまでマスクも自粛も必要なかったのに、それより弱毒性であるコロナウイルスに対して、特別の対処の必要はない。	
マスコミに対して 煽るような報道を控えるように対応してもらおうこと。	
大学についてもオンラインと併用で対面も進めるように進言すること。	
新しい生活様式を科学的かつ人間的に正しい方向に変えるべきだと考えており、神戸市としても独自で考えていただきたい。	

## ■「神戸市新型コロナウイルス感染症対策第1次対応検証結果報告書」の主なご意見

分野	概要
広報・周知	新型コロナウイルスの感染者(主に陽性者数)の発表を終了すること。
	兵庫県民・神戸市民・国民に対して、新型コロナは危険なウイルスではない旨を宣言すること。
	不要不急の意味合いが曖昧過ぎて、近所付き合いや地域への活動に支障がでているようなので、その辺の常識的な基準を市からご提示いただきたい。
	介護事業でリハビリ行っているが、持病もちの老人のリハビリと罹病リスクについて明確な指示を出すべき。
	次の感染に向けて、各業種、家庭、学校等のできる対策を具体的に表してほしい。
	基礎疾患ある人、高齢者に対し不要不急の外出を控えるよう呼びかける前に、予防してない、若者にまず自粛を求めるべき。
	岩手県のガイドラインを参考にしてほしい。
	追跡を徹底するため、陽性者の立ち寄り先情報を、もっと公開すべき。
	視・聴覚障害者、在日外国人等への情報発信や内容を整理・体系化し、聞こえる方や日本人と同じ量の情報発信ができるようにしてほしい。
	くらしの情報(特例措置)は、手話動画による説明や点字データ、外国語資料等でも情報提供をしてほしい。
特別定額給付金のページと同様「聴覚障害のある市民の皆さんへ」「在日外国人の皆さんへ」など、見出しをつけて案内していただければ分かりやすい。	
市立学校園	オンライン授業の早期導入を図るべき。
	コロナ対応の業務が増え、現場は疲弊している。学校への経済支援や人員支援をお願いしたい。
	給食前に全員アルコール消毒をしてほしい。
	式典についても、熱中症などの呼びかけについても、学校に委ねすぎではないか。
	学校における過剰な対策も不要であり、特定の音楽などの発声に関することだけ注意して、あとは通常の運営で良いのではないか。
	コロナ感染により臨時休校した学校も、今後は休校せずインフルエンザ同様の対処にしてほしい。
	7月8日のような警報も含めて休校措置は取らずしっかり穴埋めしてほしい。
	若者がコロナは、無症状で広げるとの事、小、中、高校、大学、各種専門学校で、コロナの感染予防に対する教育を、それぞれの学校で行ってほしい。
	オンライン授業は、普及率の高いスマホでも見れるため、私立同様、早期に開始すべき。
	学校主導ではなくて、神戸市立中学の行事は教育委員会が主体的に指示と指導をしてください。
	専門業者に幅広く隅まで消毒していただけると保護者としては安心して子供を通学させられる。学校内の消毒は、学校の先生方の仕事ではありません。
	生徒だけでなく先生の感染予防も考慮してください。
	一早い学校閉鎖を希望する。
	コロナといじめは関係があり児童生徒のストレスもかなり溜まってきており防止策に予算を組んで力を入れてほしい。
	差別や偏見を無くすために、学校機関や一般市民に徹底した人権教育をすること。
	学生に感染者が出たら、無症状でも休校はやりすぎ。
	オンライン授業もしくは休校措置を取るべき。
マスクをしていたので、接触者無しなら、授業や行事や大会など出来るものがたくさんあったはず。	

## ■「神戸市新型コロナウイルス感染症対策第1次対応検証結果報告書」の主なご意見

分野	概要
市立学校園	秋冬に備えて、ぜひオンラインでの授業配信を考えていただきたい。
	学校でのコロナの対応認識に温度差があるように思います。ガイドラインをキッチリ作成し、各教員や保護者に周知徹底すべき。
	学級閉鎖時や不登校、長期入院などにも活用できるため双方向授業への取り組みに期待。
	生活リズムやコミュニケーションなどの管理は難しく、朝の双方向ホームルームがあれば良い。
	部活差し入れなども、最後のゴミの処理など顧問の責任で行うようにすべき。
	合宿についても細かいガイドラインを定めるべき。
	一律、一斉休校はやめて感染状況に応じて学級閉鎖、学年閉鎖、休校を選択してほしい。
	中学生の部活動を禁止して下さい。部活動の再考をお願いします。
保育所	保育園等の自粛を行ってほしい。休んだ場合、保育料も軽減してほしい。
	第二波が訪れた際には、家庭保育要請を再度実施し、その際に休んだ分の保育料は免除してください。
	保育園は生徒や先生とも距離が近いので、感染が広がった場合、家庭保育の要請を出して、前回のよう保育料も減額して頂きたい。
	再度家庭保育を要請し、自粛した日は保育料を返金頂けるように。
	可能な方は登園自粛して、保育料を軽減して頂くことを希望。
	熱などが流行ってる場合や、クラスにそのような症状の子供がいる場合は、保育園から予め保護者に通知するよう義務付け、連絡するようにはどうか。
	登園自粛したい、登園自粛分の保育料は返金して頂きたい。
社会福祉施設等	視覚障害の人たちが利用できる同行援護のサービスについて、外出自粛期間中においても必要に応じて利用できるようにしてほしい。
	情報の伝播用として罹患リスクのある老人には、ケアハウスをもっと活用すれば良いのではないかと。
	高齢者施設にて防災訓練のような実際に発生した場合の訓練をしてみようかと思っておりますが、かなり大変です。そういった講習の開催やモデル資料の提供を早急をお願いしたい。
	面会に関して、もう少し具体的な指示が欲しい。施設に一任されている部分が多く、施設としても判断に悩みます。
個人向け支援策	看護師さんたちにありがとうの言葉も大切ですが、お金の面のサポートをよろしくをお願いします。
	他市町村、明石市などでも新生児に給付金を独自支給しているようです。神戸市も子育てしやすい自治体として、給付金の検討を。
	これから産まれてくる子どもや、コロナ渦で産まれてきた子どもにも給付金を検討を。
	幼児などと二人暮らしの親御さん、また介護が必要な高齢者、障がい者と二人暮らしの方が陽性となった場合の、その幼児や介護が必要な方を保護する施設も必要。
	隔離、治療される方がひとり親やひとりで介護されている方の場合を考えて、子どもたちや介護されている方たちのための施設も準備すべき。
	他自治体を実施している、新生児給付金を神戸市でも導入してください。
事業者向け支援策	失った利益を補填する補助金ではなく、事業者が知恵を絞り、チャンレジすることを促す補助金制度は神戸の未来への投資として有意義。継続的に実施いただきたい。
	リモートワークの難しい業種を除き、可能な限りリモートワークを継続し、行政はそれを支援するべきである。
	Uber eats、出前館の配達者の交通ルールが守られてない。交通ルールの指導ができていない会社と市の連携は課題である。

## ■「神戸市新型コロナウイルス感染症対策第1次対応検証結果報告書」の主なご意見

分野	概要
職員・組織・庁舎	一時的にひっ迫する部署の勤務経験者を増やし、必要な時に人員を2倍以上に増やせられる柔軟な組織運営を行う。
	市役所・区役所の窓口で払う各種手数料などのお金は、現金・手渡しのみであり、セルフレジを導入するなど、ハードで対応できる対策はすぐにでも導入すべき。
	市役所・区役所にある自動販売機も”現金のみ”対応が多い。ICカード対応自販機に機種変更していくべき。
	在宅勤務、テレワークが出来ない部署で働き残業もしなければいけない状態で働いている派遣社員の負担も減らすべきではないですか。
	入院、隔離・保護の手配や、その搬送の手配などを手がける部署を作り、できるだけ保健所の負担を減らし、オール神戸の体制でこの難局を乗り切る必要がある。
	感染症対策を充実させるために保健所を各区に復活させてほしい。
物資備蓄体制	保健師の定員を増員されたということですが、一時的でなく、継続的に増員し、体制を充実することが必要。
	マスクポストのマスクを学生に配ってはどうか。
市有施設等	備蓄は市関係機関だけでなく、防災グッズと同じく、全企業、全市民にしてもらいたい。
	市民が楽しみにしている諸々開催予定の屋外イベントを神戸市が率先垂範して「with コロナ時代の新たな暮らし」に即した屋外イベントとして、参加者への理解と協力を求めながら開催に向けて実践努力していただきたい。
意思決定	対策エリアの選択と集中を情報を持っている自治体が、エリア毎の対応をコントロールする事がwithコロナには必要。
	もっとリーダーシップを発揮して欲しい。
	「公共交通機関でのマスク着実」、「スーパーなど建物内でのマスク着実」の独自条例を制定すべき。
その他	国が、インバウンドを受け入れる事になった場合、とても慎重にしなければいけない。
	毎日、職場で第三者による「検温」を義務付ける。
	職場の事務机はパーティションで囲い、飛沫を防止させる。
	窓が無い部屋や天井が低い部屋、一人当たりの空間が3平米以下の部屋には換気扇を設置する。
	飲食店のカウンターにはパーティションを取り付ける。カウンターの下部には吸気ダクトを取り付け、吸入口は客一人につき1箇所設ける事で、吸気は外部へ排出される。
	複数人掛けのテーブルは、一人毎に固定した透明パーティションで区切り、テーブルには吸気装置を取り付ける。
	劇場や映画館では両横と後ろの三方を透明のパーティションで囲う。
	兵庫県の追跡システムと国のCOCOA、この2つを登録しない施設、企業、店舗、商業施設、病院等は営業許可を取り消すという条例の施行が必要である。
	子供など安全な地域への疎開なども考えられる。
	新型コロナウイルス感染症の指定感染症解除への働きかけと、全数把握対象の5類感染症への再指定に向けた働きかけを行うこと。
	新型コロナを指定感染症から除外させるよう、政府に働きかけること。
	死亡者もほとんど出てない状態で、新型コロナウイルスを指定感染症から外してはいけないのか。
	検証には、各分野の専門家を入れて行うべき。
	緊急事態宣言を望みます。